



2026.2.10

2026年3月期 第3四半期 決算説明会資料

セイノーホールディングス株式会社（9076）

目次

01 2026年3月期 第3四半期 決算概要

02 輸送事業について

03 2026年3月期 業績予想

Appendix

本日お伝えしたいこと



- **【輸送事業は34.8%増益】** 輸送事業の特積みでは、第3四半期に物量の回復が見られ、単価の上げ幅は上期に比べ緩やかになったものの、当社に強みのある高重量帯が全体をけん引し、3.9%伸長しました。また、運行便の効率化により費用増加を17億円抑制できたこともあり、58億円の増益に寄与しました。
- **【連結：増収増益】** 輸送事業で適正運賃収受が進展したことやMDロジス連結効果などにより、売上高は12.9%、営業利益は27.8%の増収・増益となりました。MDロジスを除いた場合でも、売上高は2.3%の増収、営業利益は15.5%の増益となりました。
- **【MDロジスは好調】** 国内物量の増加などにより好調に推移しており、通期業績予想比では、売上高77.1%、営業利益88.6%の進捗となっております。

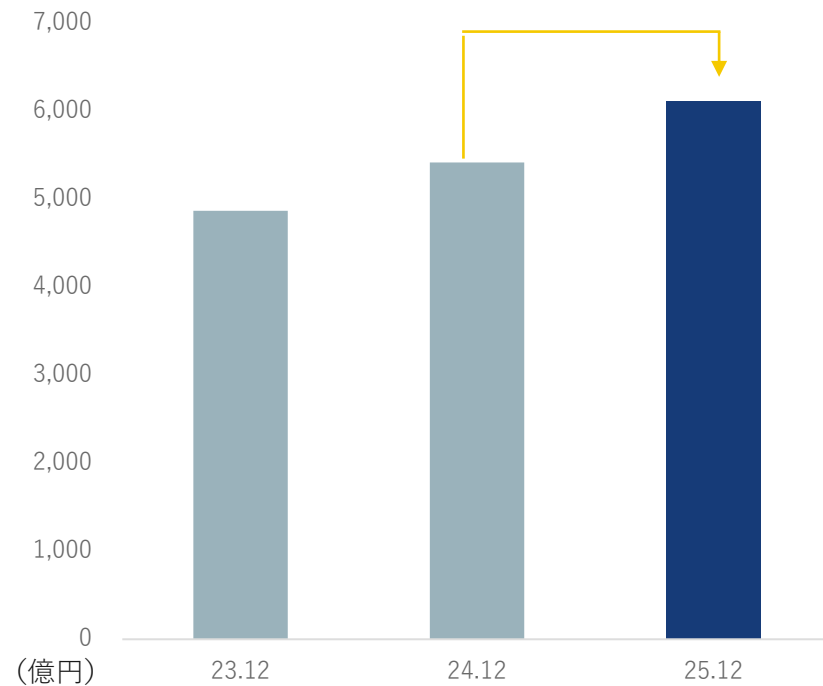


01 2026年3月期 第3四半期 決算概要

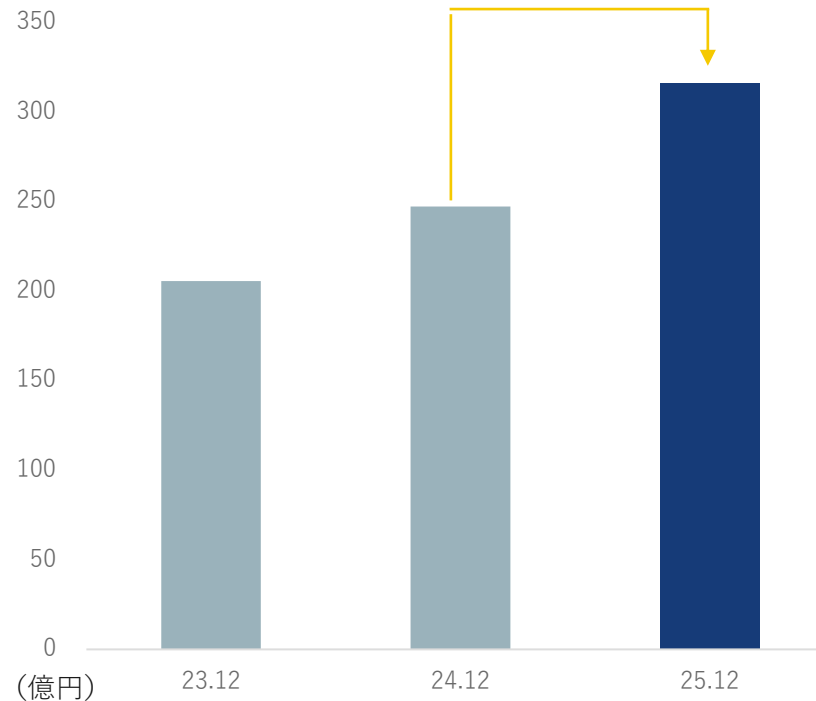
連結売上・営業利益 共に前年同期比で大きく増加



売上高
6,114億円
前年同期比 + 12.9%



営業利益
315億円
前年同期比 + 27.8%



< MD ロジス連結効果 >
売上 **891.6億円**
(前年同期比 +187.5% [+581.5億円])
(通期進捗率 77.1%)
営業利益 **47.1億円**
(前年同期比 +227.2% [+32.7億円※])
※前期の取得関連費用6億円を含む
(通期進捗率 88.6%)
★2025年3月期第3四半期より連結化

営業利益率も
4.6% ⇒ **5.2%**
へ上昇

P / L : 増収・増益



MDロジスの連結効果に加え特積みの伸長により増収・増益

(単位:百万円)	24.12	25.12	前年同期比	通期進捗率
売上高	541,684	611,427	+12.9%	75.1%
売上総利益	65,217	75,267	+15.4%	
(粗利益率)	12.0%	12.3%	+0.3pt	
販売管理費	40,503	43,677	+7.8%	
営業利益	24,713	31,590	+27.8%	84.0%
(営業利益率)	4.6%	5.2%	+0.6pt	
親会社株主に帰属する 第3四半期純利益	14,192	18,403	+29.7%	83.7%

売上高

(MDロジス除く)
前年同期比 +12.9% 前年同期比 +2.3%

輸送事業の特積みでの適正運賃収受の進展による単価上昇に加え、MDロジス連結効果（581億円）などもあり697億円の増収

営業利益

(MDロジス除く)
前年同期比 +27.8% 前年同期比 +15.5%

輸送事業での売上増加や、運行便の効率化により費用増加を抑制したことに加え、MDロジス連結効果（32億円※）もあり68億円の増益（※前期の取得関連費用6億円を含む）

第3四半期純利益

(MDロジス除く)
前年同期比 +29.7% 前年同期比 +29.4%

営業利益の増加に加え、固定資産処分損が20億円減少したことなどから、第3四半期純利益は42億円の増益（MDロジス連結効果：4億円）

事業の概要：輸送事業は増収増益



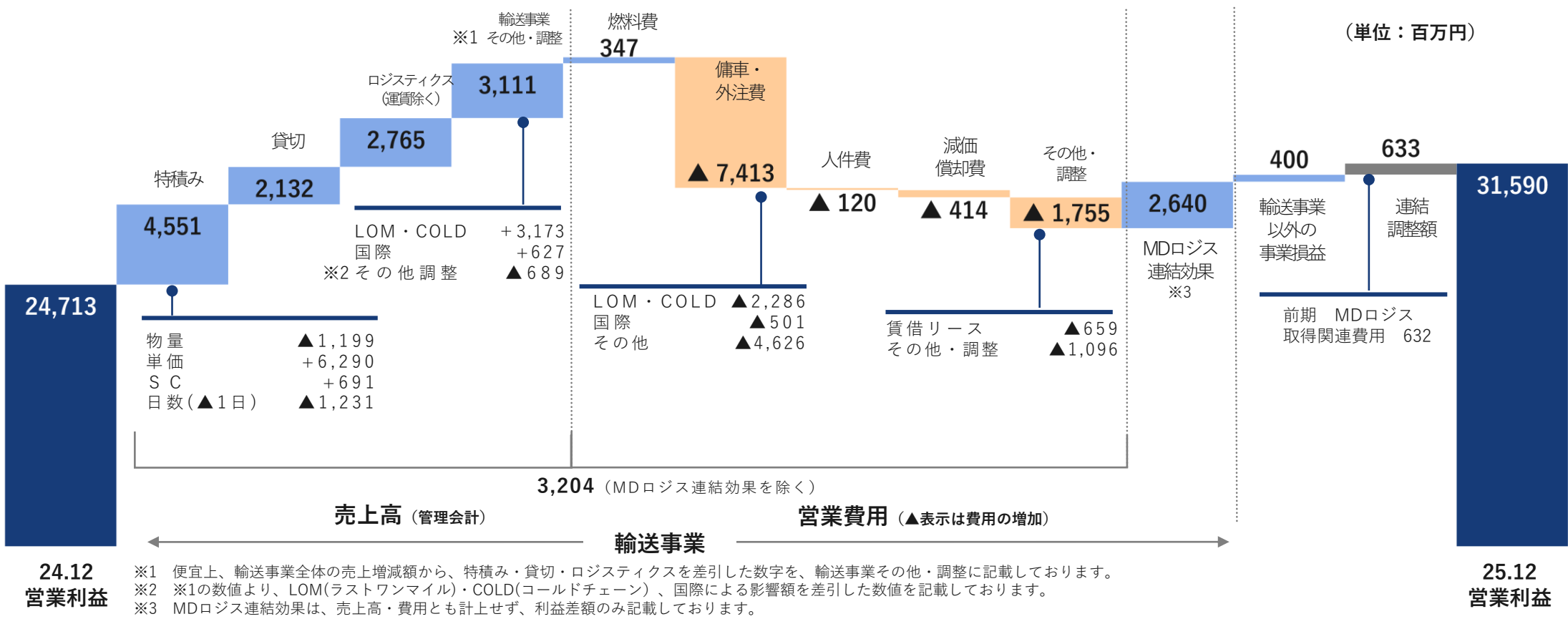
(単位:百万円)	売上高 (前年同期比) 【通期進捗率】	営業利益 (前年同期比) 【通期進捗率】	25.12 事業概況	KPI
輸送事業	473,913 (+17.5%) 【75.0%】	22,639 (+34.8%) 【78.9%】	<p>売上高</p> <p>強みのある高重量帯を中心に適正運賃収受が進展し、3.9%の単価上昇となったことに、MDロジスの連結効果が加わり68億円の増収【MDロジス除く前年同期比：+3.4% 125億円の増収】</p> <p>営業利益</p> <p>増収に加え、運行便の効率化により費用増加を抑制したことに、MDロジスの連結効果が加わり58億円の増益【MDロジス除く前年同期比：+21.7% 32億円の増益】</p>	<p>特積 前年同期比</p> <p>物量 99.3% (西濃運輸：一般+ミニ) (グループ：99.5%)</p> <p>kg単価 103.9% (西濃運輸：一般) (グループ：103.3%)</p> <p>ロジスティクス 前年同期比</p> <p>売上 149.5% (発送運賃除く)</p> <p>貸切 前年同期比</p> <p>売上 106.7% (西濃運輸)</p>
自動車販売事業	83,222 (▲5.4%) 【74.0%】	6,208 (▲3.6%) 【99.3%】	<p>売上高</p> <p>乗用車は、メーカーの供給面の影響が続き販売台数が減少。トラックは、バックオーダーで好調であった前年からの反動減もあり減収。</p> <p>営業利益</p> <p>新車の粗利率の上昇や、中古トラックの販売増、整備等の拡大による増益もあり、減益幅が改善</p>	<p>新車販売台数 前年同期比</p> <p>乗用車 12,164台 (93.8%)</p> <p>トラック 1,491台 (75.1%)</p>
物品販売事業	31,451 (+8.1%) 【82.3%】	1,147 (+20.5%) 【97.2%】	介護用品を中心とした家庭紙販売が引き続き好調であったことから、増収・増益	
不動産賃貸事業	1,829 (+5.0%) 【76.2%】	1,346 (+5.3%) 【77.4%】	期中の新規賃貸や賃料改定などにより増収・増益	
その他	21,010 (+6.8%) 【73.2%】	1,804 (+25.8%) 【97.5%】	情報サービス、管工事業、人材派遣業などが好調であったことにより増収・増益	

連結営業利益の増減要因（前年同期比）



輸送事業は、適正運賃収受の進展などによる売上拡大が、備車・外注費等の費用増加を上回り、
MDロジスの連結効果を除いても32億円の増益、連結営業利益は68億円の増益

（MDロジスの連結影響が大きいいため、売上高・営業費用より除外し、MDロジス連結効果に計上しております）



輸送事業の営業費用 (MDロジスを除く)



売上増加（3.4%）に対し、運行便の効率化などにより
費用増加（2.7%）を抑制したことも増益に繋がった一因

（単位:百万円）	24.12	25.12	前年同期比	コメント	
人件費	144,224	144,344	+120 (+0.1%)	人員増減(12月末時点) 正社員	▲0.1%
燃料費	13,358	13,010	▲347 (▲2.6%)		
減価償却費	14,666	15,081	+414 (+2.8%)	建物及び構築物 車両及び運搬具 ソフトウェア その他	254 ▲36 100 96
傭車料・取扱手数料・外注費	146,386	153,812	+7,426 (+5.1%)	LOM・COLDでの増加 国際での増加 LOM・COLD・国際以外の増加（※） ※運行便の効率化(減便)による1,704百万円の費用抑制後	2,286 501 4,626
その他	40,675	42,923	+2,247 (+5.5%)	賃借・リース料の増加 賃借・リース料以外の増加	659 1,588
営業費用合計	359,310	369,172	+9,861 (+2.7%)	MDロジスを除く売上増加	12,589 (+3.4%)

キャッシュ・フロー



フリー・キャッシュ・フローはプラスとなったものの、
配当金支払などにより現金同等物は29億円の減少

(単位:百万円)	24.12	25.12	増減額	増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	40,844	38,949	▲1,895	税金等調整前四半期純利益の増加 (+7,715) 売上債権の増減額 (▲3,030) 棚卸資産の増減額 (▲3,480) 仕入債務の増減額 (+3,118) 法人税等の支払額の増加 (▲5,887)
投資活動による キャッシュ・フロー	▲70,386	▲27,030	43,356	定期預金の払戻預入による増減 (+5,543) 連結範囲変更を伴う子会社株式取得による支出 (+37,646)
財務活動による キャッシュ・フロー	27,715	▲14,864	▲42,579	借入金の増減額 (▲41,761) 子会社の自己株式取得による支出 (▲1,562) 配当金の支払額 (+1,598)
フリー・キャッシュ・フロー	▲29,542	11,919	41,441	
現金及び現金同等物に係る 換算差額	17	16	▲1	
現金及び現金同等物の増減	▲1,808	▲2,929	▲1,121	
現金及び現金同等物の 期首残高	75,378	77,354	1,976	
現金及び現金同等物の期末残高	73,569	74,425	856	



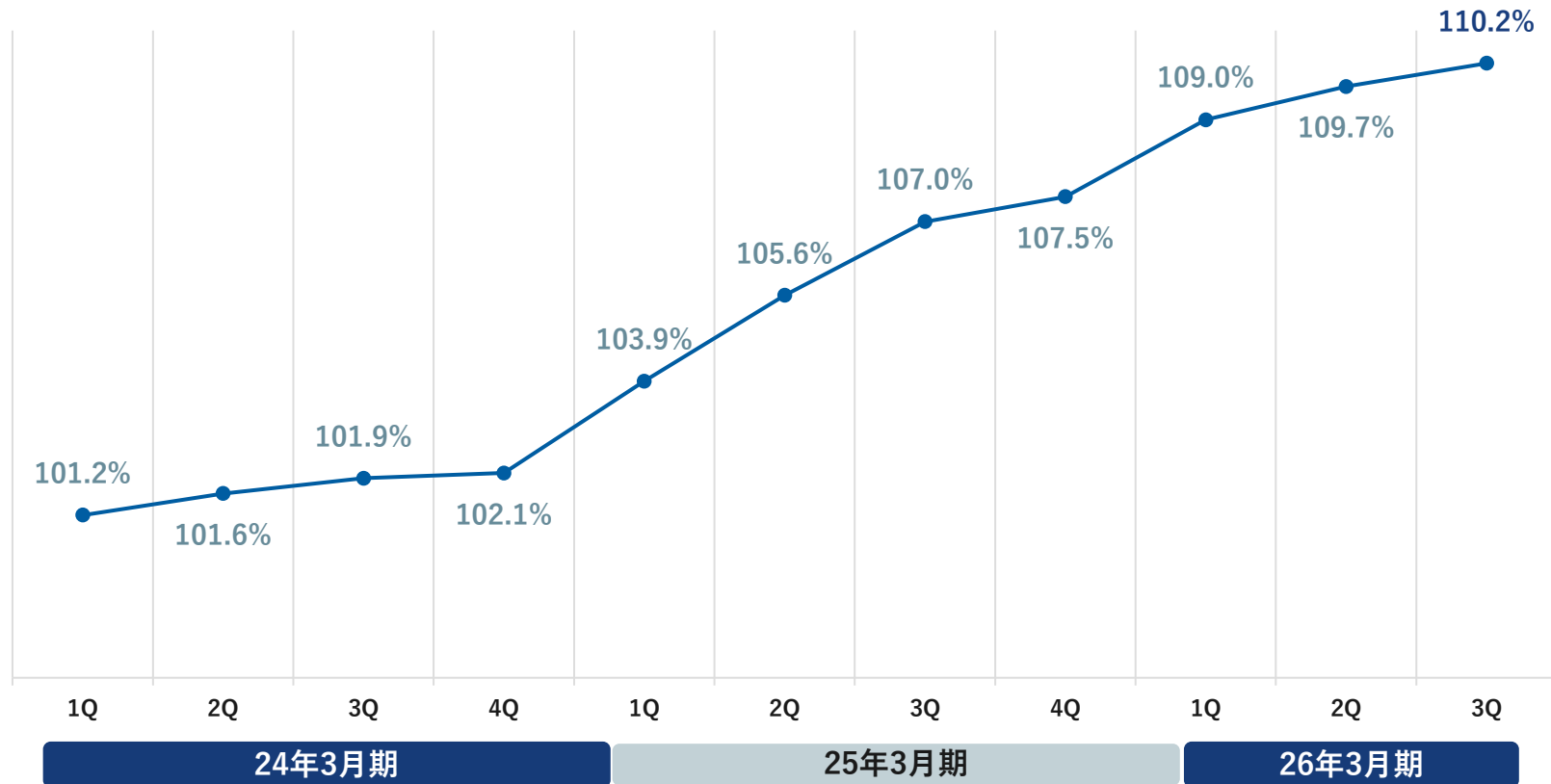
02 輸送事業について

kg単価の推移（22年度同期比）



ロードマップ2028 開始以降単価は着実な右肩上がりを継続中

（集計：西濃運輸 一般便）



特積み：物量・単価の状況

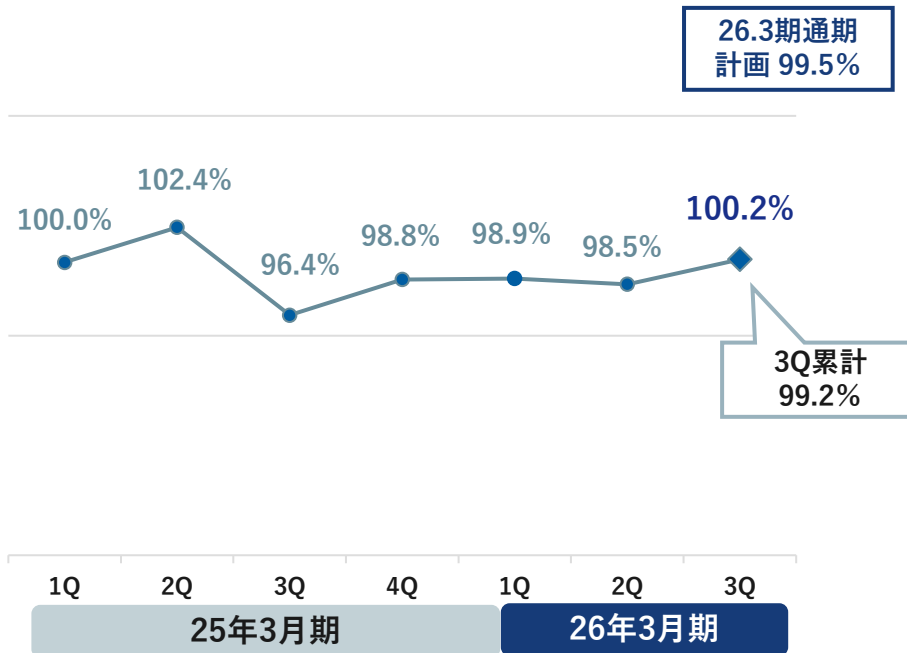


国内需要の弱さが続く中でも、既存顧客の取引維持・拡大により物量は底堅く推移

運賃改定効果によりkg単価は前年比+3%水準を維持

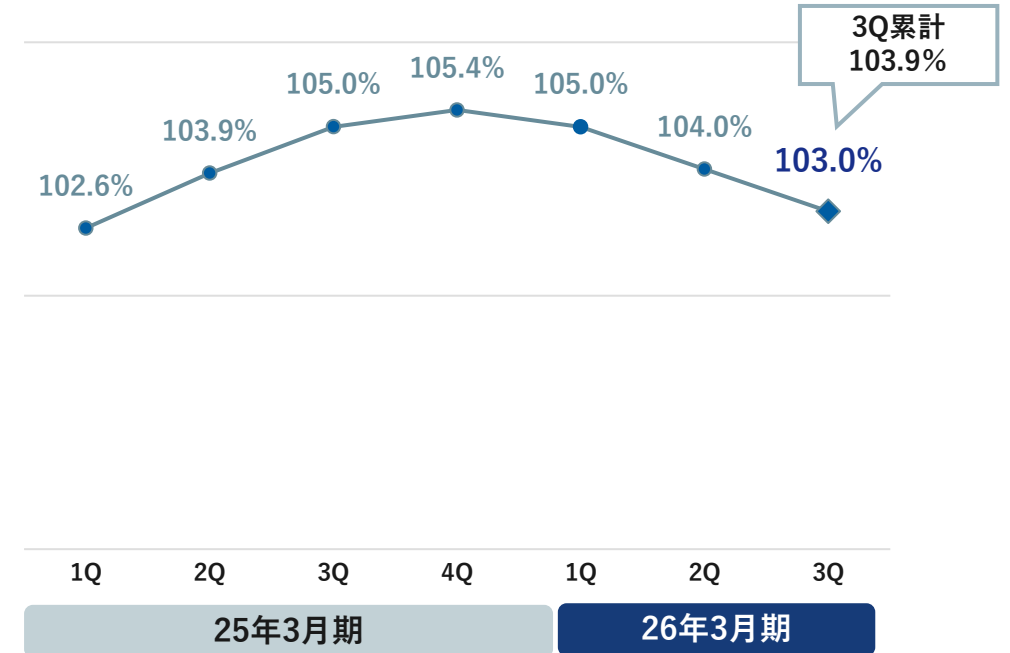
日当たり物量（前年同期比）

（集計：西濃運輸 一般+ミニ便）



kg単価（前年同期比）

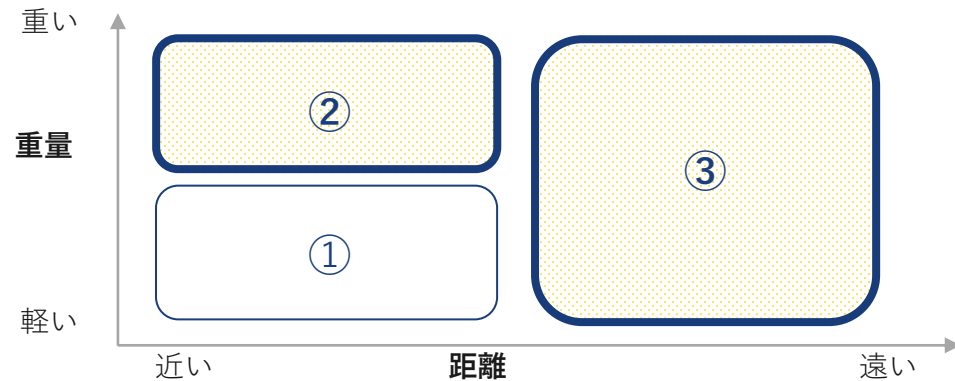
（集計：西濃運輸 一般便）



重量・距離帯別の分析（西濃運輸）



重量・距離帯別領域



(集計：一般+ミニ)

(集計：一般)

重量・距離帯別 前年比（4-12月）

重量帯／距離帯	日当り物量	kg単価
①300kg以下／ 500km以下	98.6%	103.6%
②300kg超／ 500km以下	100.4%	104.6%
③500km超	98.3%	104.2%
全体	99.2%	103.9%

物量(4-12月)

想定 99.5% 実績 99.2%

- ・ 3Qは日当たり100.2%
- ・ 小口・短距離は弱含む一方、高重量・中長距離帯が下支え
- ・ 好調業種および主要取引先から、安定的な物量を確保

単価(4-12月)

想定 104.5% 実績 103.9%

- ・ 3Qのkg単価は前年比103.0%と、適正運賃収受の定着により前年を上回る水準で推移
- ・ 改定にご理解をいただいた顧客との取引拡大を軸に、品質・安定輸送など+αの価値提供を継続
- ・ 収益性を確保しつつ、物量との両立を着実に推進

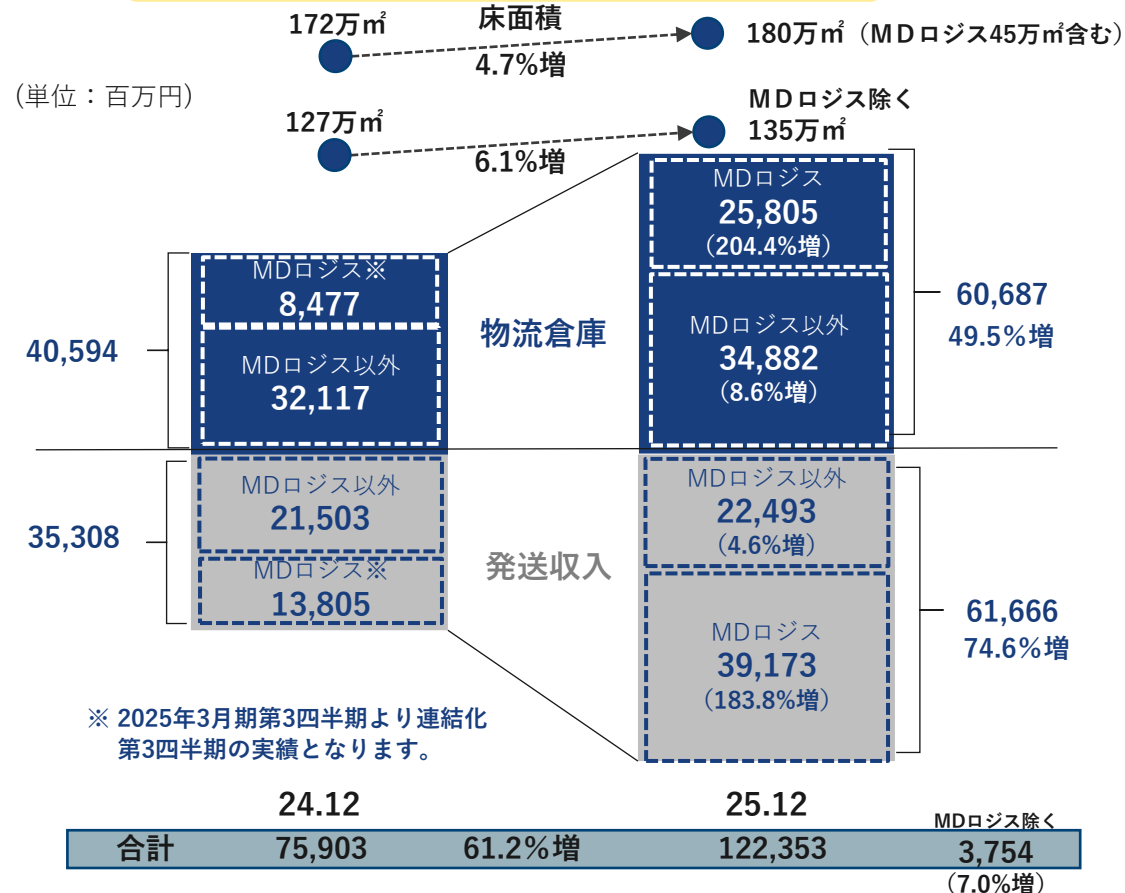
ロジスティクス・貸切事業の状況



ロジスティクス | 売上高 (管理会計)

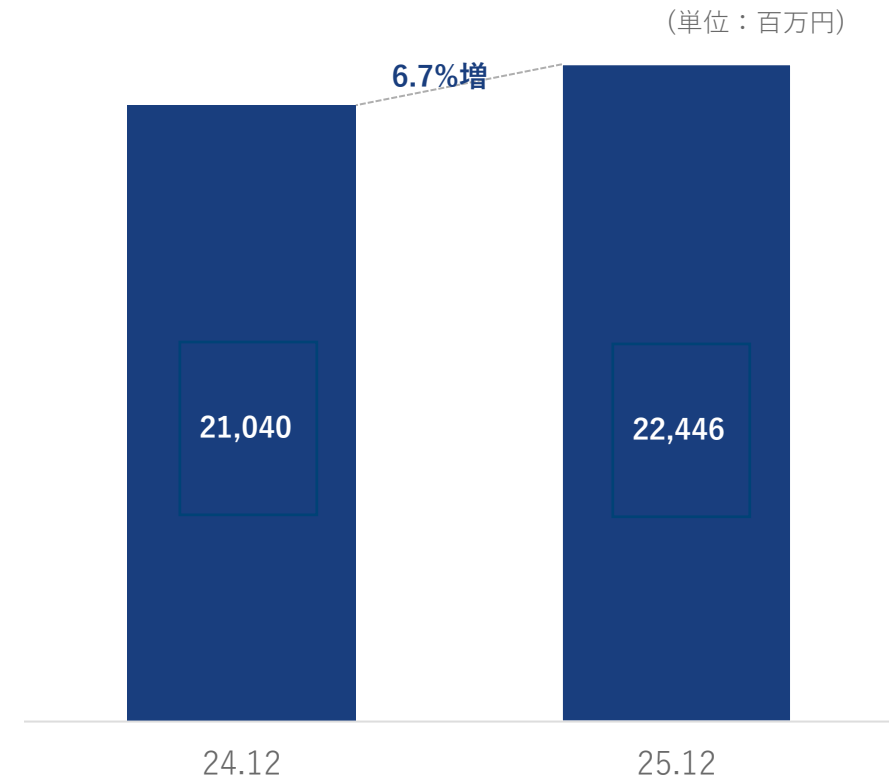
MDロジス連結効果もあり売上・床面積とも大幅増加

新施設の稼働率が上がり売上増加に寄与



貸切 | 売上高 (西濃運輸：管理会計)

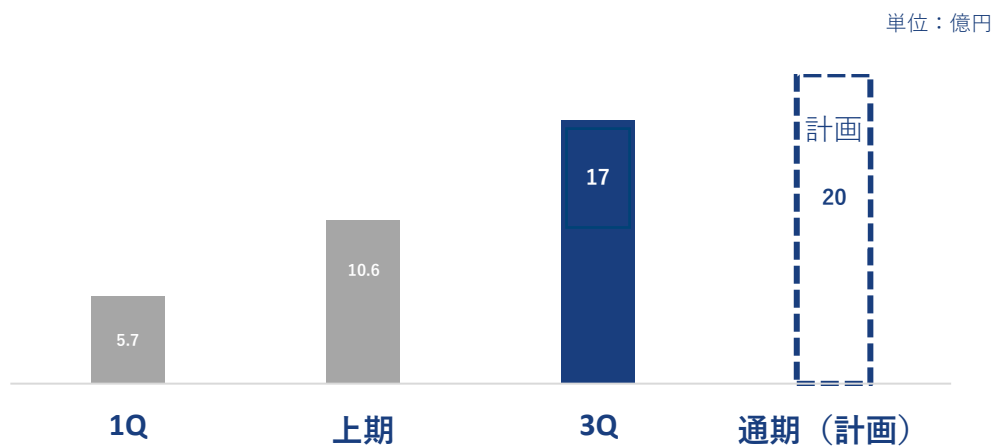
配車対応力強化で突発・緊急案件を取り込み、既存顧客への深耕が進んだことで、6.7%の伸長
集中配車センターを増やし、更なる拡大を図る



運行便の効率化（西濃運輸）



運行便の効率化



3 Q累計で17億円の効率化効果（延べ30,100便）

- ・ 低積載の定期便を中心とした効率化
→ 3 Q累計は定期便延べ**22,300便**の効率化
- ・ 物量波動に合わせた効率化
→ 特定曜日、大型休日前後に延べ**7,800便**を効率化
- ・ 集約の推進、再編
→ 中継輸送専門店、ロジ施設の夜間活用、
地方便の集約再編

通期見込み 20億円（延べ36,700便）

- ・ 通期での低積載定期便を中心とした効率化は、延べ**28,900便**を見込む
- ・ 季節波動に合わせた効率化についても、4Qでの上積みを目指す



03 2026年3月期 業績予想

業績予想の想定



1.単価：利益寄与 37億円

単価想定：104.5%

- ・前期から取り組んでいる3年周期の運賃改定のターゲットや、個建契約荷主の運賃改定をなど、適正運賃収受の取り組みを継続する。

3Q累計 103.9%

2.物量想定

物量想定：99.5%

- ・米国関税問題の影響が見えない部分が多く、国内経済の先行きが不透明であることから、現時点では、物量は若干の減少を想定

3Q累計 99.3%

3.MDロジスの通年寄与：利益寄与 19億円

- ・24年10月より連結化、今期連結業績に通年寄与
通期連結影響額 売上 549億円 営業利益 19億円

3Q累計 26.4億円

4.ロジスティクスの拡大：利益寄与 10億円

- ・売上拡大により先行投資のキャッチアップを図るとともに、新たな成長に繋げるための投資も進める。
今期は4拠点（自社3：賃借1）を開設し、5.6万㎡の床の確保を進める。

前期先行投資回収（利益寄与）
3Q累計 6.4億円

5.コストコントロール：利益寄与 20億円

- ・物量に 관련된 運行体制の構築として、往復物量のアンバランスをハコベルでの片道手配を進めるなど、コストコントロールを進めることで、運行便全体の積載効率を高め混載差益を創出する。

運行便の効率化（費用抑制）
3Q累計 17億円

2026年3月期 業績予想（通期）



第3四半期までは好調に推移しているものの、
 特積みの物量・単価が想定に届いていないこともあり、業績予想は据え置き

再掲

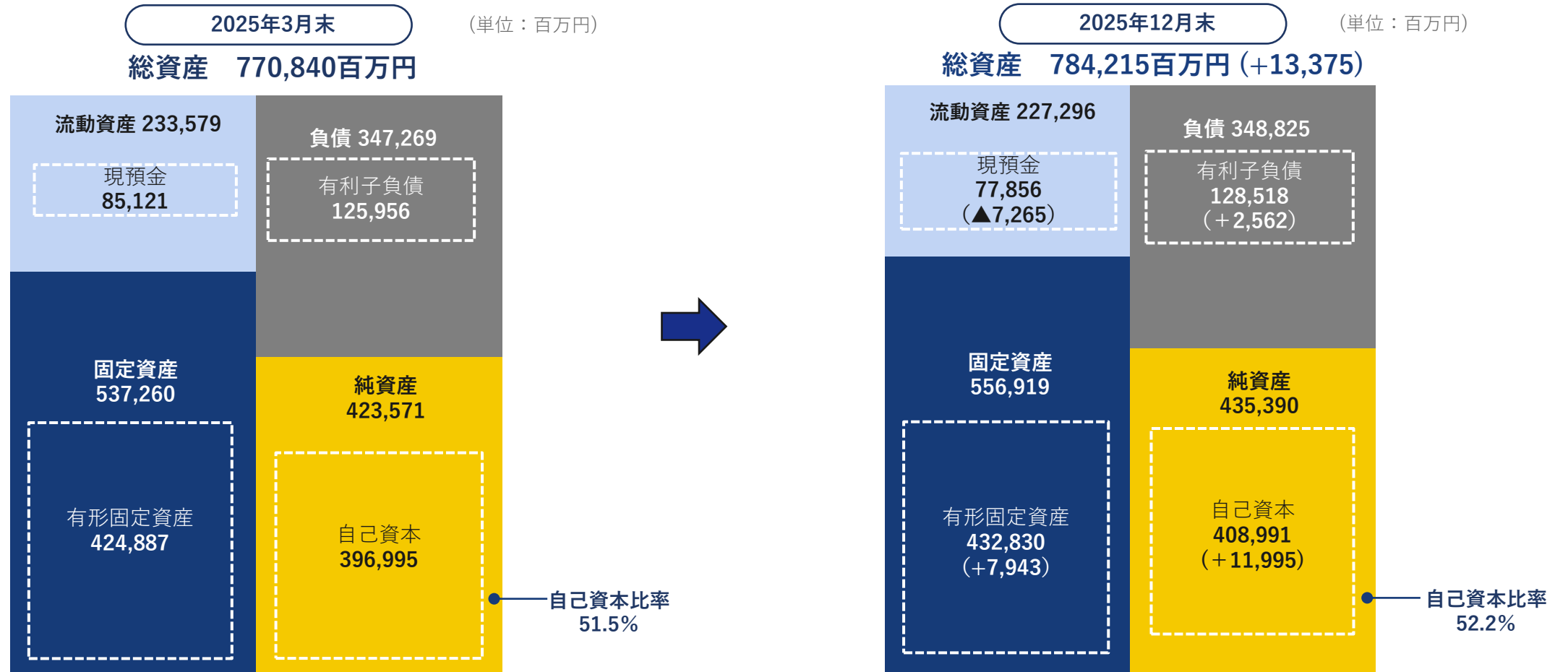
(単位:百万円)	26.03 (予想)	25.03 (実績)	増減額 (前年)	増減率 (前年)	コメント
売上高	813,700	737,377	+76,322	+10.4%	【輸送事業】 < MDL影響額 > 売上 54,940百万円 営業利益 1,970百万円 (通期売上) 115,700百万円 (通期営業利益) 5,320百万円 <特積み（西濃運輸）> 物量 99.5%（日当り） 単価 104.5%（一般） 日数 100.0%
輸送事業	632,000	554,126	+77,873	+14.1%	
自動車販売事業	112,400	115,328	▲2,928	▲2.5%	
物品販売事業	38,200	38,780	▲580	▲1.5%	
不動産賃貸事業	2,400	2,354	+45	+1.9%	
その他	28,700	26,786	+1,913	+7.1%	
営業利益	37,600	29,883	+7,716	+25.8%	【自動車販売事業】 <新車販売台数> 乗用車 16,600台（99.5%） トラック 2,029台（80.4%）
輸送事業	28,700	20,743	+7,956	+38.4%	
自動車販売事業	6,250	7,161	▲911	▲12.7%	
物品販売事業	1,180	1,169	+10	+0.9%	
不動産賃貸事業	1,740	1,731	+8	+0.5%	
その他	1,850	1,829	+20	+1.1%	
調整額	▲2,120	▲2,752	+632	-	
経常利益	38,300	28,124	+10,175	+36.2%	持分法投資利益 150百万円
親会社に帰属する 当期純利益	22,000	19,253	+2,746	+14.3%	EPS 147.35円（+31.94円） ROE 5.4%（+0.7pt）

Appendix

バランスシート



有形固定資産の取得もあり、現預金が減少
有価証券評価差額金の増加により自己資本は増加



営業費用（連結）



MDロジスの連結もあり営業費用は増加（12.2%）したものの、
費用増加を上回る売上増加（12.9%）により営業利益は増加

（単位:百万円）	24.12	25.12	前年同期比	コメント	
人件費	171,204	185,267	+14,062 (+8.2%)	MDロジス連結影響 MDロジス以外での増加	13,151 910
燃料費	13,748	13,643	▲105 (▲0.8%)	MDロジス連結影響 MDロジス以外での増加	254 ▲359
減価償却費	17,389	19,508	+2,118 (+12.2%)	MDロジス連結影響 MDロジス以外での増加	1,584 533
傭車料・取扱手数料・外注費	161,040	194,890	+33,849 (+21.0%)	MDロジス連結影響 MDロジス以外での増加	26,423 7,426
その他	153,585	166,527	12,941 (+8.4%)	MDロジス連結影響 商品仕入原価の減少 賃借・リース料の増加	13,670 ▲2,676 720
営業費用合計	516,970	579,837	+62,867 (+12.2%)	連結売上増加率 12.9%	

バリューレポートを公開しました ～私たちは価値創造企業への進化を目指します～



TOP MESSAGE

Team Green Logistics

による価値創造に

コミットします

代表取締役社長
田口 義隆

社長としてお伝えしたいこと

- 「人間尊重」を軸として「衆智」を広く集め、ガバナンスの高度化を図っています
- 「物流を核とした価値創造企業」への進化を目指しています
- 企業・業界の垣根を越えた連携の取り組み「O.P.P.」を推進しています
- お客様へのさらなる価値提供を目指した「On Behalf」を推進しています
- PBR1倍超の早期達成を目指しています
- ROE8.0%以上の達成に向けた課題を直視し、対策を講じています
- 財務価値と非財務価値の創出の両立と、見える化に取り組んでいます

価値創造ツリー

～有形・無形資産を土台に経営理念を実現します～



私たちの使命

価値創造の実現

価値創造ツリー

MISSION 「価値創造／輸送立国」の実現

社会へのインパクト

国家・社会へ貢献
Well-beingの実現
環境保護への貢献
地域と社会の発展
持続可能な物流インフラの構築
就業環境の質向上
低炭素社会の構築
労働人口減少対策への貢献

提供価値

プレ財務価値

財務価値

積載効率の向上

GHG排出量の削減

エンゲージメントの向上

資本効率向上

主なKPI

積載率／実車率／
時間当たり生産性

主なKPI

Scope1・Scope2排出量

主なKPI

エンゲージメントサーベイ
で重視する指標（P43参照）

主なKPI

ROE／総資産回転率

主な活動

ロードマップ2028重点施策

On Behalf (成り代わり)

ロジスティクス

周辺領域 (人材・金融など)

O.P.P.

特積み

貸切

定着・採用力の強化

BCP対応と
地域連携の推進

M&A/CVC/
新規事業

資産

価値創造を支えるセイノグループの資産

組織資産

経営理念

人的資産

顧客資産

物的資産

金融資産

Mission実現に
向けた経営の重点課題
(マテリアリティ)

持続可能な
地球環境への
貢献

安心・安全な
職場環境づくり

多様な人が
活躍する
組織づくり

輸送事業を
通じた
社会貢献

社会課題解決型
事業の推進

責任ある
企業運営

持続可能な
企業風土の醸成

● 環境
● 人・社会
● ガバナンス

事業を通して持続的に企業価値と
社会価値を共に高め、
さまざまなステークホルダーの皆様
に対して価値を提供します。

私たちの価値創造の源泉である
有形・無形資産を強化し、
ロードマップの施策を推進することで
価値創造／輸送立国という
経営理念を実現していきます。

人的資本戦略

～“人の力”を高め、価値創造を加速させます～



価値創造を支える基盤

お客様の繁栄・会社の発展が従業員の幸せ

従業員のWell-beingを追求する人的資本戦略

従業員の幸せが競争力の源泉であると考えます

私たちの経営理念は「会社を発展させ、従業員を幸福にする」というものです。この「幸福」は、経済的に満たされること、自分の仕事に誇りを持つこと、そして将来に明るい展望を持つことの三本柱で成り立っています。

その理念を実現するために、さまざまな取り組みを進めています。例えば中核会社である西濃運輸では、ドライバーの定着を支える「グループ制」を採用し、仲間同士で業務をカバーし合う仕組みをつくりました。業務量を平準化し、突発的な休みにも対応できることと、安心して働ける環境とチームの連帯感が育っています。加えて、従業員持株会を充実させ、企業価値の向上を従業員自身の経済的利益と結び付けられる仕組みも整えています。さらに、野球部や空手道部といった企業スポーツへの応援活動は、職場を超えた一体感づくりを象徴する取り組みです。部署や役職を超えて感動を共有する経験が、組織全体の結束力を高め、日常の業務にも良い循環をもたらしています。制度と文化の両面で進めるこうした取り組みが、当社の人的資本戦略を象徴しています。

経営理念の実現に向けた取り組みを推進しています

従業員のエンゲージメント向上に取り組んでいます

「Team Green Logistics」を支えるのが人的資本戦略です。従業員が誇りを持ち、仲間を尊重しながら価値を共創できる環境づくりを重視しています。そのため挑戦を後押しする制度や一体感を育む文化を入れ、安心して働ける職場と相互に支え合う関係を整備し、エンゲージメントを高め、人的資本を持続的な競争力へとつなげています。

人的資本戦略の具体的な取り組み

テーマ	具体的取り組み	2024年度	2025年度目標
定着向上	● 勤務できる環境の改善（早退・遅刻など） ● 勤務先での生活に関するコミュニケーションの取組	92.5%	95%
採用力向上	● セミナー・研修サービス、外部企業と連携した人材育成プログラム（リファレンス・プログラムなど） ● 採用活動の透明化・効率化	セイノグループ 365人 セイノグループ 500人	セイノグループ 365人 セイノグループ 500人
個人の成長（教育）	● 全社員の基礎スキル向上に向けた研修 ● 各部署・各職種の専門スキル向上のための研修 ● セミナー・研修サービス	セイノグループ 100% セイノグループ 100%	セイノグループ 100% セイノグループ 100%
従業員の一体感の醸成	● 応援、応援を支援し、従業員が会社スポーツへの参加と学習が促進される ● 「一休の休日」に関する取組	73.36%	80%

戦略を支える制度

ドライバーのグループ制

業務上の悩みや不安が解消され、業務量の平準化や、突発的な休みの取得が可能

研修の実施体制

業務上の悩みや不安が解消され、業務量の平準化や、突発的な休みの取得が可能

持株会の拡充

従業員が安心して働ける環境とチームの連帯感が育っています。加えて、従業員持株会を充実させ、企業価値の向上を従業員自身の経済的利益と結び付けられる仕組みも整えています。さらに、野球部や空手道部といった企業スポーツへの応援活動は、職場を超えた一体感づくりを象徴する取り組みです。部署や役職を超えて感動を共有する経験が、組織全体の結束力を高め、日常の業務にも良い循環をもたらしています。制度と文化の両面で進めるこうした取り組みが、当社の人的資本戦略を象徴しています。

従業員持株会保有株式数

2023.3 70万株
2024.3 216万株

バリューレポートについて詳しくはこちらをご確認ください

47 SEINO VALUE REPORT

長期的な企業価値をどのように創造していくかを一貫したストーリーとして分かりやすくお伝えするためにバリューレポートを発行しました。

今後の企業価値向上のためにもステークホルダーの皆様からのフィードバックや対話をお待ちしております。

バリューレポートについて詳しくはこちらをご確認ください

<https://www.seino.co.jp/seino/media/pdf-lib/shd/ir-pdf/2025valuereportA3.pdf>



Team Green Logisticsの目指す姿

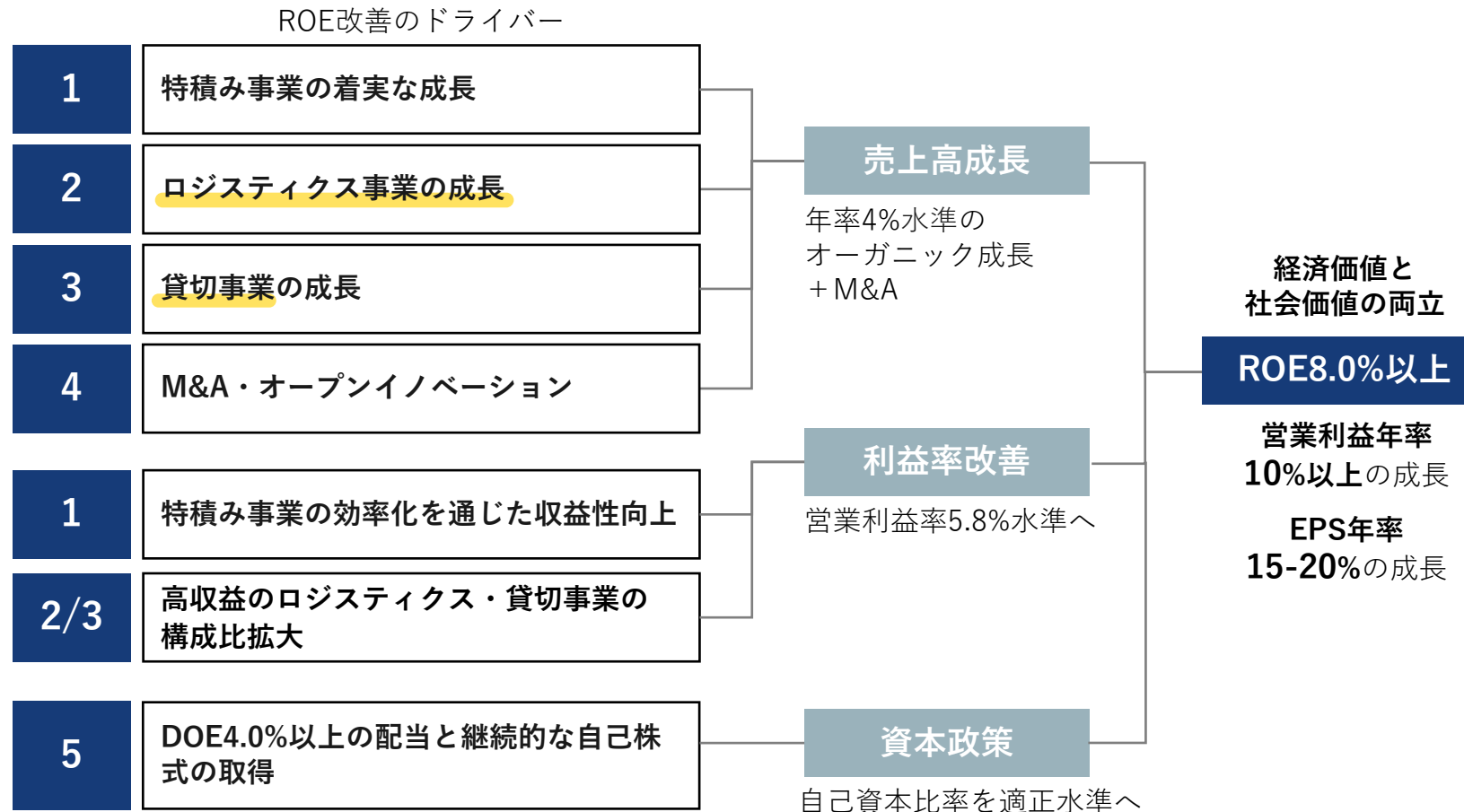
業界・企業の垣根を越えたオープン・パブリック・プラットフォーム（O.P.P.）によりGreen物流を展開



逆ROEツリー



ロードマップに基づきロジスティクス事業と貸切事業の推進を加速させます



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先

セイノーホールディングス株式会社

〒503-8501 岐阜県大垣市田口町 1 番地

TEL : 0584-82-5023 FAX : 0584-82-5043

<http://www.seino.co.jp/seino/shd/>

E-mail : i.r@seino.co.jp